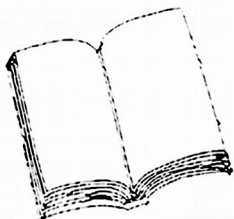


【概況報告】



ウラン探鉱

1. 権益維持

海外のウラン資源の権益を国内民間企業等に移管するまでは、権益の適切な維持とこれまでの成果の取りまとめを実施することとなっている。成果の取りまとめについては、取りまとめの詳細な内容を決定し、本文の作成を行った。また、データベースへのデータ入力を行った。

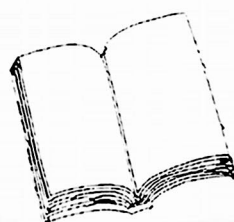
カナダの権益移転については、譲渡契約書の作

成を行った。

海外現地法人の清算準備として、米国法人の清算手続き内容の検討を行った。オーストラリア法人事務所の閉鎖準備を行った。国内民間移転の対象外となったオーストラリアの小規模権益について、売却手続き等を実施した。ジンバブエ権益の放棄に関する手続きを終了した。

(東濃地科学センター)

【概況報告】



ウラン濃縮技術の開発

1. 遠心機開発

日本原燃株式会社及び電力10社との共同研究として実施している遠心機開発は、単機のガス流動特性試験及び遠心機金属材料の腐食試験を行った。

基礎的・基盤的技術開発として実施している遠心法先導的技術開発は、超高性能遠心機の強度・回転特性解析、回転・分離性能試験、遠心機構成材料の応力腐食試験、表面処理長期信頼性試験を実施した。

また、超高性能遠心機の開発成果報告書の取りまとめを行った。

2. 原型プラント

電力会社との3年間延長運転の追加役務契約に基づき、第一運転単位(DOP-1)にて、回収ウラン原料による濃縮役務運転を継続した。なお、第二運転単位(DOP-2)については、1999年11月をもって濃縮役務運転を終了している。

3. 滞留ウラン回収技術開発

濃縮機器やプラント内に滞留しているウランを回収することを目的とする滞留ウラン回収技術開発については、処理用フッ化ガスを製造するため反応温度等をパラメータとした反応速度係数確認の基礎試験を終了し、フッ化ガス製造設備設計、製作の仕様検討等を行った。

また、滞留ウランの除去及び回収試験における排風機、排気ダクト等の排気設備設置工事及び排気モニタ、フッ化水素モニタ等の放射線監視設備設置工事を行い、科学技術庁の施設検査を受検した。濃縮工学施設においては、集合型遠心機(DOP-2型遠心機)を使用したフッ化ガスによる滞留ウラン除去試験を実施するための設備の改造を継続している。

(東海：環境保全・研究開発センター)
(人形：施設管理部)